

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ全員で話し合い新しい理念を作った。地域との関わりについては、立地上の問題もありまずは、気軽に立ち寄ってもらえる家を目指して皆で取り組むこととした。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆で共有し、少しずつではあるが実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所内の掲示及び家族へは手紙と一緒に送付している。しかし、地域への取り組みはまだまだ不十分である。	○ たよりの発行を現在準備中である。それを通じて知っていただく機会を作っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	立地上の問題もあり、気軽に立ち寄ってもらうことは出来ていないが、今年度に入り、町内会からの誘いもあり、わずかずつではあるが、地域の方々と交流を持つ機会がでてきた。	○ 地域行事への参加を促した、参加をすることにより地域の方達からも知っていただく機会を増やしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んでいるが、ねらいや活用法については全職員への周知は不十分である。	○ 改善項目についても、主体的に計画をし取り組めるよう、具体策を皆で考える場を設ける。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録を閲覧できる場所に置き、スタッフはいつでも見ることができるが、会議内容については十分にわかっていない人もいる。	○ 会議録の確認のみでなく、報告や話し合いの場を設け、サービス向上・地域に根ざした施設を目指していきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の事業所連絡会議には市役所職員の参加はあるが、地域事業所一般に関する情報が主である。グループホームとの積極的な関わりは持っていない。	○ 運営推進会議への参加を呼びかける。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者のみが研修を受け知っている。スタッフへの周知はまだまだ不十分であり、支援できる体制ではない。	○ 学習会の開催や研修参加を図り、皆が知る機会を設け必要時には支援に結び付けられるようにしたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	上記に同じ	○ 上記に同じ

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者・家族に事業所の理念・方針等をゆっくりと説明している。特に利用料や入院・退居については質問もよくあるため、繰り返し話しをしているが、十分に理解を得られない場合がある。(主に利用者)	○	上手く理解できていない時には再度、家族・利用者・管理者場合によってはスタッフ代表を交えて理解できるまで話し合いの場をつくる。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。利用者はスタッフに対し意見・不満・苦情をぶつけてくる。また、いつでも聞ける体制をとっており申し送り等で話し合い解決し、安心して暮らして頂けるよう心がけている		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会や月初めの手紙で報告をしている。発熱等の突発的なものは電話で状態報告をし、場合によっては受診への同行を呼びかけている。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等は声を掛け話しやすい雰囲気を作るよう心がけている。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議でスタッフの意見・要望を聞く場はあるが、不満等は言いにくい部分も多いと思われ、把握しきれていない。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況や状態に対応できるよう、必要に応じて柔軟に職員を配置するよう心がけ、スタッフ同士互いに声を掛け合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は固定化されているが、離職や移動がやむを得ない時も引継ぎの面で努力をしているが、上手くいかない時もある。	○	利用者について十分な引継ぎを行い、混乱を最小にする。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修参加への機会は少ない。報告書の提出はあるが、報告会は行っていない。	○	年間研修計画を作成するとともに、参加後は報告をする機会を作っていく。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの交換実習研修に取り組み始めている。	○	自分たちに施設を客観視したものをまとめ、サービス向上に活かす。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦の場や気分転換を図れる機会の設定はあまり作っていない。	○	職員同士の親睦の場を設けていく。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設に足を運び状況を把握する努力をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談で、これまでのサービス利用状況・経緯等について話を聞いている。また本人・家族の不安や思いに向き合い、スタッフが本人に受け入れてもらえるように関係作りに心掛けている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に状況を確認し支援の提案等を行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に面会を働きかけ、利用する不安を取り除けるようにしている。また、利用前には自宅に訪問したり、都合がよければ施設の見学を促している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いに支えあって生活しているという意識を心掛けているが、力不足を感じる時がある。日々、喜怒哀楽をだせる雰囲気作り・本気で語ることの出来る関係を築いていきたいと思っている。	○ 利用者の親戚に近い他人でありたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に利用者の様子やスタッフの思いを伝えるとともに、家族の思いへも耳を傾け協力関係を築けるよう努力している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態・状況を報告し思いを伝えている。	○	面会・外泊、家族との外出を奨励し、家族の一員としての絆を深めて働きかけていきたいと思っている。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続的な交流が出来る働きかけは不十分である。	○	慣れ親しんだ美容室や商店街への外出を増やせるよう、ご家族からももっと情報を収集していきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良し悪しを把握し、その上で皆で楽しく過ごせるよ場面や利用者同士の関係が上手くいくようスタッフは配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院での利用終了となった方には継続して面会に出掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で一人一人の思いを把握するようにしているが、気を遣って言葉に出せない部分もあり十分であるとは言えない。	○	利用者の視点になり話し合っていく。家族・関係者からも情報収集を行っていく。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に自宅を訪問し、聴き取りを行い、その人の情報を把握する努力をしている。		
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	情報の共有に湯止めている。その人の生活リズム・ペースが継続できるようにしている。	○	その人のできること・できないことを把握しても利用者への促しが上手くいかずにいるため、今後も継続して皆で考えていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議やモニタリングをスタッフ皆で行い課題を話し合っている。しかし、利用者主体の暮らしを反映させた具体的な計画には必ずしもなっていない。	○	利用者の暮らしにもっと着目し、もっとその人らしく暮らせるような介護計画作成に努めたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前でも随時、状態変化時には見直しを行うようにしている。	○	確実に申し送りが成されるよう、書面にて開示しているが、その都度確認も行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり、毎日の暮らしの様子や職員に気づきを記録し、記録の内容は皆で共有できている。しかし、気づきが不十分な面がある。	○	気づける目を養い、さらに記録を充実させ介護計画にも反映させていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況・その時の要望に応じた柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	歌や踊りのボランティアは行事等の際、来所の呼びかけを行っている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャーとの連絡・相談（入、退居）は行われているが、サービス活用の支援は行われていない。	○	行政独自のサービスは何があるのかを知ることからはじめたい。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、今まで以上に情報を交換しやすくなった。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化・終末期に対する家族の意向を把握するとともに、施設の設定・体制も踏まえたうえで施設・家族と共に本人にとって何が大切かを一緒に考える。（繰り返し話し合いの場を設ける）</p>
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>利用者・家族の意向を踏まえた上で医療機関や家族との連携を図り、支援していける体制作りを目指したい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族から情報を得て生活環境が極端に差がないよう配慮している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃の介護場面での声掛けや誘導で誇りを傷つけないよう気をつけている。個人情報保護法については、概ね理解しているが施設内に写真は掲示していない。	○	個人情報について勉強をする。写真についてはアルバムを使用し掲示しなくても楽しめる形を考える。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事参加、外出等で自己決定を促している。また家族からの情報も参考にし利用者の希望や嗜好を把握している。	○	話し方をもっと工夫し、理解を深めその人に合った支援に努める。
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースやその日の状況に合わせて柔軟な支援に心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望に応じて理・美容院へ出掛ける支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については施設が決めたメニューが殆どである。調理・片付けについては働きかけているが理由付けをし一緒にやろうとしない。	○	継続して徐々に参加していただけるよう雰囲気作りに心掛ける。また食事を一緒に摂ることを検討する。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物や本人の希望の者を依頼を受けスタッフが代わって購入する日がある。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを記録すると共にスタッフ間で声を掛け合い誘導し、自立に向けた支援を行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めておらず、その人の希望する日に対応するようにしているが、時間帯については職員の決めた時間になりがちである。(介助を特に要する場合)		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に応じて休息を促している。目覚めて寝付けない利用者には安心できる場所で眠っていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブ等に誘い気分転換を働きかけている。また手芸や歌番組の好きな方へは教え楽しんで頂いている。	○	役割を持って、生き生きと生活を送れるよう、上手く導き出せるよう今後も皆で継続して考えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望により、金銭を自己管理していただいている。	○	買い物時可能な範囲内で（一人一人に合わせて）お金を持って頂き、好きな物を買うよう援助する。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じ文化祭や買い物・ドライブ等に出掛ける援助を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望により個別にドライブ外出を行っている。また必要に応じて家族に協力していただき、帰省や墓参りを行っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使えるようにしている。また、自室に電話を設置している方もいる。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に声を掛け、居心地の良い雰囲気になるよう心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないようスタッフが意識をし取り組んでいる。	○	広義の意味での身体拘束について勉強会の機会を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、施設の周囲を散歩希望される方は自由に楽しめるよう、さりげなく見守りし支援している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を問わず見守りを行い安全に留意している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態にあわせ預かりしている物もある。洗剤類については鍵付の棚に入れスタッフが管理している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予測される事故をユニット会議や申し送り時に話し合いを行っている。反面、危険に気づけず、そのままになってしまう時もある。	○	ヒヤリ・ハット報告書の記入の習慣づけにより、小さな事へも気づくことの出来る目を養う。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時・緊急時のマニュアルがあり、目のつくところに掲示している。	○	定期的に周知徹底を図る。消防署による救急法の研修開催。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報及び避難訓練は年2回実施しているが立地上地域住民の協力が得難い。	○	運営推進会議を通じて避難訓練への地域の方々への参加を呼びかけてみたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測されること等について面会の時などを通じて家族に話をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックや食事・排泄の観察を行い、それを記録にし、体調変化の発見に努めており発見時には看護師に相談・報告をし、必要に応じて受診をしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の文献は個人のケース記録に貼付し確認できるようにしている。薬の副作用等については、その都度看護師より報告があり、また観察の指示もある。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く摂って頂くよう促したり、歩行を促し身体を動かすようすすめている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の習慣や意向を踏まえ個別に働きかけているが、一般に昼食後の口腔ケアが不十分である。	○	1日3回の口腔ケアが実施できるよう声掛けを行い、スタッフが根気強く働きかける。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し情報を共有できるようにしている。食事の内容も状態に応じて取り組んでいる。	○	定期的に栄養士に献立を確認してもらいアドバイスを受ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルが作成されている。ノロウイルスについてはハイター使用した掃除を徹底し、手洗いはペーパータオルを使用し感染予防に努めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は購入月日を記入し使用時も確認をしている。また、毎日使う分だけを配達してもらっている。調理器具類についてはハイター消毒および食器洗浄機を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇や玄関前にはプランターを置き入りやすい雰囲気作りに努めている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、玄関にはベンチを置き外気浴を楽しめるようにしている。ホールや玄関には季節感を活かした物を飾るよう工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳で、自分の好みの場所で過ごされている。しかし、気の合う同士が談話や談笑を楽しんでいると、一部それを嫌がる方が居る。	○	気の合う方同士が気を遣うことなく楽しめる空間作りを考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのもので使用を働きかけて いる。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定時に温度・湿度を確認し調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりが浴室やトイレ・廊下に設置している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ドアの色が全て同じ色のため、暖簾やドアノブに 花をつけ目印にしている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	玄関にベンチを置くことにより、利用者は自由に 腰を掛けている。畑もつくっており、トマト等が 熟したときには利用者が散歩をしながら収穫をし てきている。	○	畑作業への参加・アドバイスを利用者からもっと もらえる様、引き出し方を工夫していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人の思いに気づき対応できるようまた、ご家族様とは面会等を通じて日々の様子を伝え情報が共有できるよう、スタッフ皆で心掛けている。当たり前の生活が当たり前になり